

山行報告書

受付 No.	3 4 2	登山地・ルート	霞沢岳
目的	春山トレーニング		
メンバー	L: 大山、松野、廣瀬		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
3・20・土	晴れ	浜松＝沢渡◎＝釜ト礼～西尾根取付～霞沢岳～ K2 ～ K1 ～ テント場 8:20 9:01 14:32 15:09 15:34 17:46
3・21・日	雪	テント場～ジャンクション～明神～上高地～釜ト礼＝沢渡◎＝浜松 7:42 10:07 13:03 14:08 16:09

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

駐車場での仮眠は取らない作戦で深夜に浜松を出て7時過ぎくらいに沢渡に着く。正月ほどに夕シの姿はなかったが、駐車場にある車に合わせたようにどこからともなく現れた。

【釜ト礼～取付】雪の解けた路面を歩いて快晴のなかを取付まで歩く。林道が分岐した所を入り笹藪の上に辛うじて残っている雪を踏み、笹を掴んで尾根に這い上がる。尾根上でアイゼン装着。

【西尾根】尾根に乗った所から1700mくらいまでは藪がひどく、先を行く2人が藪の向こうに消え、ひとり藪と格闘する。2000mくらいまでは木登りあり、雪壁ありのなかなかハードな登りだが、先行者のトリスにも助けられる。2000mを越えると単調な上りが続き、2500m付近の尾根が細くスリッパになった所で日帰りで下ってくる先行者に会った。彼らとすれ違い、その先の短い岩場を越えてしばらく行くと山頂に着く。付近は風が強く吹きさらしで、荒れる予報の今晚～明日のことを考え、西尾根を降りるか樹林帯まで先を進むかの選択肢となり協議のうえ後者を選ぶ。

【山頂～テント場】山頂から、右手に雪庇の張り出す尾根を進み、所どころバックステップで慎重に下り、K2を越えK1に至る。ここの下りが傾斜があり、ロープを出す。雪質も、ざくざくかと思えば急に固い雪面に変化したりとロープがある方が安心して下れた。3ピッチ出した後、一部アンザイルで下り、再び2ピッチロープを出す。ロープを回収して15分も歩くと樹林帯に入り、テントを設営する。夜中、谷の方ではかなり風の音がしていたが、テントには当たることもなく静かだった。3時過ぎくらいからテントに雨の当たるような音がして3時半くらいに雷の轟音が間近で響く。その後も近く遠く聞こえる雷に怯えながら起床時間を迎え、テントの外を見ると雨ではなく雪が降っていた。

【テント場～釜ト礼】テント撤収する頃には雪も小やみになり薄日もさしてきたので停滞せずに下山することにする。輪かんを着けていたらだらだらと長い尾根を登ったり下ったりを繰り返す。昨日ほど急な傾斜ではないのになんだかすごく疲れた。ジャンクションからは、降雪もあるので黒沢には下りず尾根を下る。下り始めは広い尾根なので磁石で方向を定め、右手の谷を目印にしながらかた下る。やがて標高を下げると尾根が細くなり藪も濃くなってうんざりしてきたところで谷へ下りられそうな所があったので、雪崩の危険もないと判断して谷から一気に黒沢へと下り、徳本峠への登山道と合流して明神へ。この時期なのに吹雪の上高地を通り(その中に張られているテントも数張あったし、入山者とも結構すれ違った)、大正池で夕シを予約して釜ト礼へと下った。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



藪尾根はじまる…



穂高を正面に、K2・K1を目指す



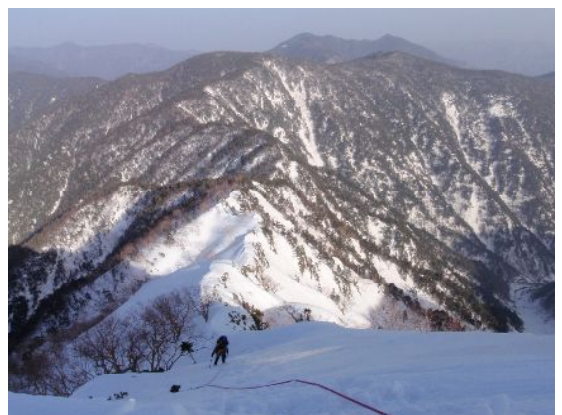
核心部？のリッジ



K1よりK2・霞沢岳山頂を振り返る



山頂直下、シュカブラが風の強さを物語る



K1よりの下り、1ピッチ目